

テキストの内容を踏まえ自らの考えを表現する力の育成
～高大接続システム改革を見据えて～

福島県立葵高等学校 教諭 高橋 敏哉

1 研究の趣旨

自らの考えを表現する力の育成は、現行学習指導要領の課題の一つである。私自身も生徒と関わる中で、このような力の欠如を実感していた。加えて、今後実施される大学入試改革では小論文等が重視される見込みである。それゆえ本研究では、テキストの主題を踏まえつつ自己の価値観や人生観を基に社会的事象について思考・判断させる発問を通して、明確な理由や根拠をもって自分の考えを書いて表現できるようにすることをめざし、以下に述べるような仮説を設定した。

国語科の授業において、以下の手だてを講じれば、テキストの内容を踏まえ、自らの考えを表現する力の育成ができるであろう。

【手だて1】 テキストの内容を正確に理解させる授業の工夫

【手だて2】 自らの考えを形成させるオープンエンドな発問の設定

【手だて3】 表現内容を向上させるフィンランド・メソッド（「型」「相互評価」）を用いた指導

2 研究の概要

※使用テキスト：清岡卓行「手の変幻」

(1) 【手だて1】について

ワークシートを活用させた。また、読解問題及び百字要約に取り組みさせた。

(2) 【手だて2】について

「不完全の美」という本文の内容を踏まえ、以下の発問を設定した。

何事においても「完全」（完璧）であることが必ずしも最良（善）とは限らない、という意見に対してあなたはどのように考えるか。また、なぜそのように考えるのか。具体例を挙げながら説明せよ。

(3) 【手だて3】について

① 発問内容に合わせた下記の「型」を提示した。また、この「型」を活用させる前に、非論理的な文章例を用いながら論理的に書く方法について指導した。

①私は、何事においても「完全」（完璧）であることが必ずしも最良（善）とは限らないという意見に賛成／反対だ。 ②なぜなら…だからだ。 ③例えば…ということがあった。 ④このような例を見ても…（＝②の内容）と言える。 ⑤これに対して…という人もいるだろう。 ⑥しかし、…だ。 ⑦それゆえ、私は賛成／反対だ。

② 「相互評価」については、非論理的な文章例で模擬評価を行わせ、適切な評価方法を指導することから始めた。また、ルーブリックを示し、それを基にA・B・C・Fの4段階で理由、具体例、反対意見に対する反論を評価させ、評価結果とコメントを付箋に書かせた。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

本主題の力を向上させることができた。回数を重ねるごとに生徒の記述内容が充実していったことや、書けない生徒が最終的にはいなくなったことは、大きな成果である。

(2) 今後の課題

【手だて3】について、ルーブリックの改善と、論理的思考力及び批判的思考力の育成という課題が見えた。前者については、判断の視点が明確になる文言を用いて作成することが大切である。後者は、まず、文章の書き方や評価の仕方についての適切な指導が求められる。また、自分の文章をしっかりと練ったり、他者の文章をじっくりと吟味したりする「考える時間」の確保が欠かせない。それゆえ、単元内での時間の確保及び、高校三年間を通じた継続的実施が望まれる。